

第8回 能楽祭

お客様へ日頃の御礼を込めて



能楽祭
 狂言 竹雪
 仕舞 昭君
 一調 龍田
 独吟 大原御幸
 舞囃子 清経
 今井 泰行
 野村 萬斎
 櫻間 金記
 松田 弘之
 種田 道一
 観世鏡之丞
 香川 靖嗣

宝生能楽堂

令和元年
 12月17日(火)
 開演14時30分
 (開場13時30分)

主催 公益社団法人能楽協会
 協賛 宝生能楽堂
 協賛 京都・烏丸三條十松屋福井 株式会社檜書店
 株式会社皆中



能楽へのご支援に感謝申し上げ、
 本公演限りの特別なおもてなし

- ご来場者へドリンクサービス。
- ご来場者を対象としたお楽しみ抽選会の実施。
 「式能」チケット、出演者サイン入り色紙ほか素敵な景品が当たります。
- パーティ付チケットをご購入の方は、抽選会后、能楽堂ロビーにて能楽師と語り合えるカクテルパーティにご参加下さい。

写真：「竹雪」撮影 亀田邦平 「棒縛」撮影 政川慎治

日時／令和元年12月17日(火) 開演 14時30分(開場13時30分)

会場／宝生能楽堂 東京都文京区本郷1-5-9

入場料金 [全席指定]	[パーティ付]	
	◆SS席	8,000円
◆S席	7,000円	10,000円
◆A席	6,000円	9,000円
◆B席	4,000円	7,000円
◆フェスティバルシート	2,020円	5,020円

チケット取扱 令和元年9月20日(金) 午前10時より発売開始

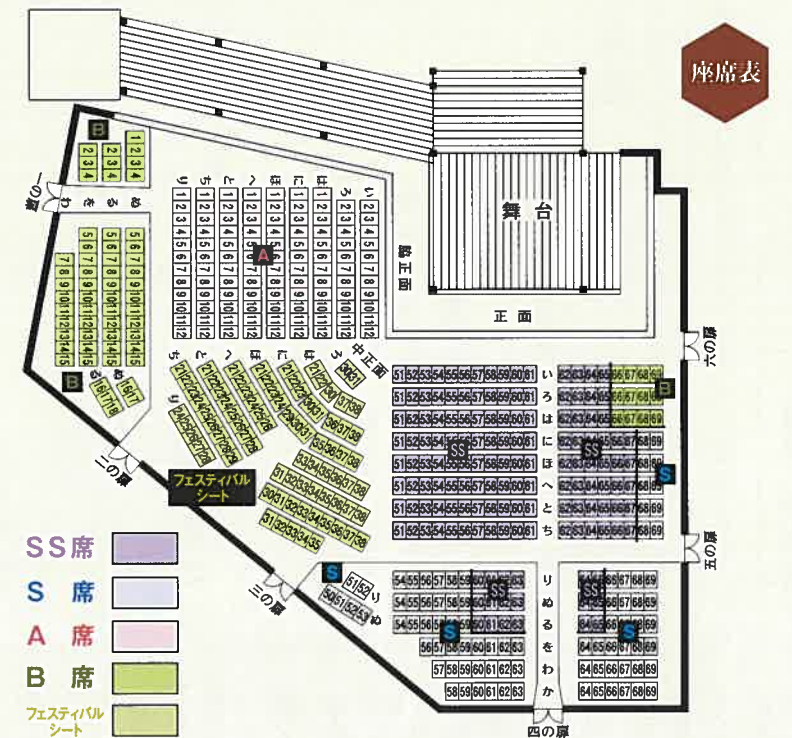
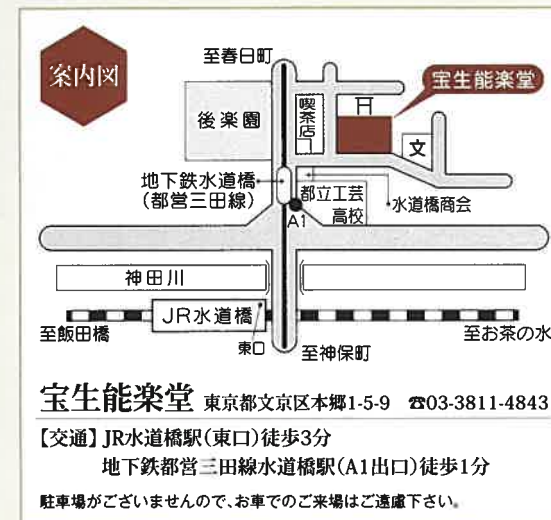
- ◆チケットスペース 03-3234-9999 (有人対応)
- ◆カンフェティ★ 0120-240-540 (有人対応)
[平日 10:00-18:00]
- ◆チケットぴあ★ 0570-02-9999
[Pコード 497-148]
ぴあ セブンイレブン全国各店舗

★印: ネット販売あり

〈前売りチケット販売期間〉9月20日(金)～12月12日(木)

※障害者割引あり...詳細は能楽協会(03-5925-3871)までお問合せ下さい。
 ※パーティ付チケットのお申込みは20歳以上の方に限らせて頂きます。
 ※本公演は未就学児のご入場をご遠慮頂いております。
 ※お受取り・お支払い方法によって、別途手数料がかかる場合がございます。

※チケットスペースのみ12月10日(火)までの販売となります。
 ※12月12日を過ぎてからのチケットのご購入については、当日券となります。
 但し、販売期間にかかわらず、チケットが売り切れ次第、販売を終了させて頂きましての
 予めご了承下さい。



※場内での撮影・録音・録画は固くお断り致します。
 ※場内での時計のアラーム、携帯電話などの電源はお切り下さいませよう
 お願い申し上げます。
 ※出演者は都合により変更させて頂く場合がございますので予めご了承下さい。
 ※開場前のご来場につきましては、能楽堂館外にてお待ち頂くこととなりますので
 ご承知おき下さい。

主催・問合せ／公益社団法人能楽協会
 TEL 03-5925-3871
<http://www.nohgaku.or.jp/>

能楽協会では、チケットの販売を致しておりません為、上記取扱所にてお求め下さいますようお願い申し上げます。

《能楽フェスティバル2017-2020》関連事業

未来への能楽普及振興を目指し、1964年開催の「オリンピック能楽祭」を再び！

※beyond2020プログラムは、多様性や国際性に配慮した文化活動・事業を政府が認証し、日本文化の魅力を国内外に発信する取組です。公益社団法人能楽協会はこの取組を応援しています。

第八回 能楽祭

御挨拶

公益社団法人能楽協会
理事長 観世鍔之丞



清 経 (きよつね)
平家の公達平清経を描いた悲劇の物語。清経は豊前の国柳ヶ浦で舟から身を投げ果てる。その遺髪を受け取った妻は悲しみの床につく。妻の枕元に清経の霊が現れ、自害に至るまでの出来事、想いを語る。舞囃子では清経が一門の行く末への絶望から、入水に至るまでの経緯を語った後、死後堕ちた修羅道から晴れて成仏する。

大原御幸 (おはらごこう)

滅亡の平家一門と運命を共にすべく、檀の浦に入水した建礼門院は源氏方に命を助けられてしまう。今は尼となり一門の菩提を弔っている。そこへ後白河法皇が訪れる。女院は一門の最期などを法皇に切々と語る。独吟では、春から夏に移り変わる瑞々しい季節の情景と、対照的な寂寞とした自分の心の内を語り込む。

龍 田 (たつた)

紅葉の盛りの候、旅の僧が龍田川を渡ろうとすると巫女が現れ、川を渡ることを押しとどめ龍田神前へと導き、神木の紅葉について語る。僧が神の告げを待つうちに龍田姫が姿を現し、夜神楽を奏でて夜明けとともに虚空に消える。一調一管は夜神楽に紅葉、時雨が降る叙景的な場面である。

番組

(開演 十四時三十分)

解説 観世 喜正

清 経

舞囃子 (喜多流)

香川 靖嗣

大鼓 安福 光雄
小鼓 成田 達志

笛 熊本俊太郎

地謡 佐々木多門
長島 茂
中村 邦生
狩野 了一

大原御幸

観世鍔之丞

独吟 (観世流)

龍 田

一調一管 (金剛流)

種田 道一

桜井 均
松田 弘之

仕舞 (金春流)

山井 綱雄

昭 君

櫻間 金記

地謡 本田 光洋
辻井 八郎
政木 哲司

狂言 (和泉流)

(十五時二十分頃)

棒 縛

シテ 野村 萬斎

アド 野村太一郎
アド 深田 博治

後見 石田 幸雄

能 (宝生流)

(十六時頃)

竹 雪

シテ 今井 泰行

ワキ 宝生 欣哉

アイ 大藏 彌太郎
アイ 大藏 教義

大鼓 國川 純
小鼓 大倉源次郎

笛 一噌 隆之

後見 小林与志郎
水上 優

地謡 今井 基
金森 良充
東川 尚史
高橋 憲正

東川 光夫
朝倉 俊樹
金森 秀祥
小倉伸二郎

附祝言

(終了予定 十七時三十分)

終演後、客席にてお楽しみ抽選会を実施

(チケットの半券が当選番号確認のために必要となりますので大切に持ち下さい)

パーティチケットをご購入の方は、抽選会後、能楽堂ロビーにて能楽師と語り合えるカクテルパーティにご参加下さい

題字 野村 萬

棒 縛 (ぼうしばり)

二人の来客が、留守番中に酒蔵の酒を盗み飲んでいると知った主人(アド)は、太郎冠者(シテ)を棒に、次郎冠者(アド)を後ろ手に縛って出かけてしまう。それでも酒が飲みたい二人は知恵を絞り、縛られたまま酒を飲むことについて成功する。酔った二人が語りや舞えやの大騒ぎをしていると…。自由の利かない手で酒蔵の戸を開けたり、舞を舞ったりと、遊び心に裏付けられた自由さがある作品。観ているこちらも心楽しくなれる、狂言の代表作の一つ。

竹 雪 (たけのゆき)

越後の国の直井左衛門(ワキ)は先妻(シテ)と離縁し、後妻(アイ)を娶る。先妻との間には二人の子がいて、姉(ツレ)は母、弟の月若(子方)は跡目相続をさせるため父のもとで暮らしていた。左衛門は参籠に出かける間後妻に月若の面倒を懸るに言い置くが、月若は母恋しさに母の屋敷を訪ねる。母との再会を喜んだのも束の間、後妻に遣わされた従者(アイ)が月若を連れ戻し、後妻は月若の着物を脱がせ、薄着で竹の雪を払うよう命じる。月若は厳しい寒さの中家に入ることできず、凍死する。従者より知らせを受けた母と姉は大雪をかき分け、ついに我が子の遺骸を見つけ、悲嘆に暮れているところへ左衛門も帰宅し、一同が嘆き悲しんでいると虚空より「竹のためめに亡くなった子を竹林の七賢の力で生き返らせよう」という声がし、月若は息を吹き返す。「シンデレラ」や「落窪物語」など継子いじめを扱う作品は数多くあるが、能にはこの一曲のみ、しかも宝生流と喜多流にだけ伝わる異色作。

◆上演形式の説明

【舞囃子】
能一曲の見せ場にあたる部分を地謡と囃子の演奏に合わせて一人ないし複数人で舞う。

【独吟】
一曲の特定部分を囃子の演奏を伴わず一人で謡う。

【一調一管】
謡い手一人と鼓一人が、能一曲の特定部分を演奏することを「一調一管」といいます。

謡い手一人と鼓一人が、能一曲の特定部分を演奏することを「一調一管」といいます。これに笛の加わったものを「一調一管」といいます。舞事部分を中心となり、笛の技術が際立つ。謡い手、囃子方共に一定以上の技量が求められ、囃子方では重い扱いとなる。本日は太鼓との組合せとなる。

【仕舞】
能一曲の特定部分を地謡に合わせて一人ないし複数人で舞う。